

第3回大野市総合計画審議会 議事概要

日時：7月28日（月）午後3時～4時30分

場所：大野市役所 大会議室

◆出席者 大野市総合計画審議会委員 18名うち代理1名（欠席者7名）
加藤行政経営部長、小林政策推進課長、政策推進課員（廣作、廣瀬、雨山）

◆次 第

1 開会

2 報告事項

（1）後期基本計画の策定状況・スケジュールについて

概 要： 資料1、2に基づき、これまでの策定に向けた取組状況と今後のスケジュールについて事務局説明

質 疑： 意見無し

3 議事

（1）後期基本計画（素案）について

概 要： 資料4の「目次」に沿って後期基本計画の素案段階における構成、「項目別ページ」に沿って、「1あるべき姿」、「2現状と課題」、「3施策」、「4みんなができること」、「5評価指標（K P I）」の構成を説明。素案の構成に対する意見や次の5年間に取り組むべき施策に対して意見をいただきたい。

質 疑：

会長 素案に対する各委員の思いや感想、24項目について不足する点や改善すべき点についてご意見をいただきたい。

委員 どの地域でもそうだが、少子高齢化や産業の停滞といった課題を抱えている。これまでも計画は立ててこられたが、なかなか施策が軌道に乗らない印象がある。とはいえ、実行していくためには、できるところから着実に取り組む姿勢が重要である。個別の項目については触れないが、私の考えとしては、「できることを、できるところから確実に行う」がモットーである。個別の項目に対しては、改めて私の思いを述べさせていただく。

会長 計画は作るものの、計画の通りに進まないこともあるというご指摘は共感する。実現できるところから実行すべきというご意見をいただいた。

委員（代理） 事前に資料を拝見し、大野市が現在抱えている問題について理解することができた。農業協同組合のため、農業分野が該当するが、農業協同組合

が今後取り組むべきことが随所に反映されており、お互いに方向性を共有できていると感じる。先ほどの意見にあったように、計画は立てるだけでは意味がなく、いかに実行していくかが重要である。当団体も、できる限り協力していきたいのでお願いしたい。

委員 P T A 連合会から出席しているが、まずは全体の構成について申し上げたい。本素案では、各項目において「現状と課題」が一体となって記述されている。しかし、前期基本計画では「現状」と「課題」が分けて記載されており、一体にした意図があれば教えてほしい。

事務局 素案で「現状と課題」を一体的に記述している意図は、主に文字量の削減である。なお、これまでの審議会や幹事会では、「現状」と「課題」を分けて整理してきた。計画書としてまとめる段階で、情報を圧縮したい思いからこのような形式とした。ただし、現時点でも文字量は多く、見やすさとの両立には改善の余地があると認識している。

会長 作成者の立場とすれば、盛り込みたい内容が多く、どうしても文字数が増えてしまうため、簡素化を目指すという説明は理解できる。

委員 個人的な意見になるが、「現状」と「課題」は分かれていた方が、読み手に理解しやすいと感じている。文字数が増えても丁寧で親切だと思う。また、この前期基本計画の冊子は全戸配布されたのか確認したい。

事務局 前期基本計画では、概要版を全戸配布している。

会長 「現状と課題」の書き方について、賛否は問わないものの、皆さんご意見があればお聞きしたい。

委員 素案を見た当初は、内容がやや抽象的で、市民に対して十分な説得力があるか不安を感じた。しかし、先ほど事務局から「今後はさらに具体的な内容（取組）を記載することを検討している」との説明を聞き、少し安心した。「みんなができること」について、現在の書きぶりは、唐突に市民に丸投げするような印象を受けるので、みんなの協力が得られるような方向性を取り入れた記載の方法が必要と感じる。

評価指標（K P I）について、各項目に 3 ～ 4 個程度の指標が設定され、現状値と目標値の記載があるだけであり「なぜこの目標値なのか」という部分が分からず、読み手は疑問に感じるのではないかと感じる。特に、目標値が現状よりも下がっている場合には、どのような意図なのか分からず不安になる。紙面の量もあるが、もう少し記載方法に工夫が必要ではないかと感じる。

会長 K P I については、確かに現状値と目標値だけでは不十分。なぜその指標を設定したのか、なぜその目標値なのか、という理由づけが必要と感じる。事務局から補足があればお願いしたい。

事務局 ご指摘の点は、まさに悩んでいるところ。K P I は、施策を評価するために必要不可欠であり、あるべき姿にどれだけ近づいたかの進捗を測る指標である。しかしながら、実際には、数値として測定できるかどうかや、測定に係るコストはどうか、あるいは施策の効果が直接的に数値に反映され

るかといった課題がある。例えば、前期基本計画では出生率を「子育て」分野の指標としていたが、子育て施策だけで出生率が変動するものではなく、他分野の影響も受けるため難しい。素案では、施策の柱に対応する形で1項目につき3つ程度の指標を設定している。また、素案には掲載していないが、単年度ごとの目標値も検討している。

目標値が現状値より低く設定されているものについては、例えば、今後の人口減少などの変化を想定して目標値を設定していたりする。指標を選んだ理由や目標値の算出方法などについて、工夫する必要があると考える。

会長 説明にあったように、例えば 30 ページに記載されている評価指標について、なぜこの項目を選んだのか、目標値の根拠は何か、という説明がもう一歩踏み込まれていると良いと思う。今後の検討をお願いしたい。

委員 初めてこの会議に出席しているため、全体の流れについてはまだ十分に把握できていない。高齢者の代表という立場から見たとき、「健康・医療」に記載されている内容が該当する項目であると感じている。がんなどの疾患は仕方がない部分もあるが、精神的な健康、認知症になることが最も不安である。そうした中、ウォーキングなどを通じて心身を鍛えるといった、「フレイル予防」の視点をより強調しても良いのではないかと感じている。また、我々老人クラブは独自事業も行っているが、事業の半分以上は社会福祉協議会と連携して行っている。しかし、計画中には社協による活動があまり記載されていないように思うので、社協と連携した取組を考えると良いように思う。さらに、ウォーキング事業によって医療費が減少しているという話も聞いている。こうした成果を積極的に示し、「この活動によって医療費がこれだけ下がっています」といったアピールが重要と感じる。なお、我々が所属する上部団体からは、e-スポーツの導入が推奨されている。e-スポーツは「仲間づくり」や「頭の運動」にもなり、認知症予防にもつながる。こうした新しい取組もヘルスウォーキングと2本立てで、進められるとありがたい。

会長 全てを網羅することは難しいが、いただいた意見の趣旨を受けながら、「みんなができること」などへの記載など事務局は検討いただきたい。

委員 これまでの審議会ですらと提案させていただいているので、別の視点で意見を述べたい。「移住定住」と「水環境」に関しては、人口が減少する中、市民は豊かな水環境により上水道にお金を払う意識が低い。移住定住に当たって、こういった豊かな水環境をPRできると良いのではないか。

会長 素案を見ての感想になるが、項目ページの1～5が重要かと思うものの、やや見づらい印象。太字のゴシック体で強調するなど、視覚的に目立つように工夫しては。また、今後、配置される写真や図表についても、どの程度まで掲載可能なか詳細は不明だが、24の各施策項目に対して、うまく分散・配置できると良い。最終的な印刷物が完成してみなければ判断は難しいが、全体をどのように見せていくかという点も検討すべき。

委員 先ほどの委員からご意見があった「現状と課題を分けるかどうか」につい

て、個人的には分けた方が分かりやすいと感じている。

また、人口の話になるが、17 年前に 4 万人いた大野市の人口が現在では 2 万 9 千人となり、5 年後にはさらに 2 万 6 千人程度まで減少する見通しで、若い世代も少なくなる。目標が掲げられているが、できることを行い、必ず達成できることを目標として挙げていくしかないように思う。

会長 人口減少という問題はどうしても先が暗くなりがちだが、それでも前向きに、そして夢のある計画としたい思いは皆さん共通である。今後も実行可能性を見据えた提案を重ねていただきたい。

委員 今回、素案を見ているが、最終的には前期基本計画と全く同じような冊子にまとめられるという理解で良いか。

事務局 同じようなデザインになるかはわからないが、冊子を作成する予定。

委員 一番気になるのは、やはり人口減少の問題である。大野市の人口減少は、日本全体の傾向よりもスピードが速く進行している。将来の人口見通しは、7 ページの棒グラフに示されている。現在の人口、5 年後の予測値も示され、これだけ人口が減少するということが、計画全体の大前提といえる。これに沿うと、例えば、土地利用の面でも、人口が減れば一人当たりの面積が増えるといった変化が生じる。

また、15 ページ、16 ページの「後期基本計画の推進」について、事務局の説明にもあったが、SDGs、ウェルビーイング、ジェンダーギャップ、シェアリングエコノミーといった用語が記載されている。そこに「大野らしさ」が感じられない点が気にかかる。このようなカタカナ語を日本語に直すのは非常に難しいところだが、これをそのまま市民に提示したときに、果たしてどれだけの人が理解し、納得できるだろうか。言葉の壁に引っかかってしまうのではないかと危惧する。伝えたいことは、「すべての人が生き生きと暮らせる社会の実現」だと思う。このように、カタカナを列挙していくスタイルだと、大野らしさ大野の独自性が感じられない。

次に、「子育て」に関する記述について、例えば、「こどもの減少に伴い、適切に定員を縮小しながら」や「職員の人材不足」の問題などを関連させて、整理できると良いのではないか。

また、「学び」について、福井型の 18 年教育という言葉は以前から言われているが、大野市も 18 年をつなぐ教育が 24 ページに記載されている。幼・小・中・高の連携と接点がいくつかあり、結・協議会の活動がされているものの、もう少し 18 年をつなぐ教育が、将来どのようなことにつなげていくのか、世界に向けて活躍できる人材を育成する、といった 18 年をつなぐ教育の将来像を明らかにしてほしい。

次に、「商工業」について、商工会議所や金融機関との連携が記載されている。少子化・人口減少・後継者不在といった現状がある中で、相談体制や創業・事業承継の支援策の必要性に加え、若者が活躍できる風土づくり、機運づくりが求められるのではないか。また、「まちなかのにぎわいづくり」に関しては、現在の商店街の実情と、まちなかのにぎわいの理想像には、

- 全くもって矛盾している。このギャップを、どのように整理するのが課題である。複数の点について意見したが、感じたのは以上の点である。
- 会長 いただいた意見は今の日本が抱える課題。人口減少やジェンダーギャップなどいろいろある中で、大野らしさをうまく取り込んで、新しい未来をつくり上げる。日本全体のこれからの流れがある中で、大野は大野らしく、こういうところは違うぞ、という点が書かれてあると夢がある。
- 委員 委員からも意見があるように、人口減少と高齢化が進行する中で、右肩上がりの計画を立てるのは、非常に難しいと思う。大野市においては、さまざまな分野で課題が山積していることは承知している。今回の素案についても、幹事会や推進会議において多くの議論が重ねられ、取りまとめられたものと思う。その上で、大野市として実行可能な取組を、ある程度の絞りを計画に盛り込むことが望ましいと考える。
- 会長 的を絞って、大野市の強みをうまく生かしていく。
- 委員 私から2点、感想と意見を述べさせていただきたい。1点目は、「子育て」に関する内容である。13ページを拝見すると、市が力を入れている「大野ですくすく子育て応援パッケージ」や、「結婚から子育てまでの切れ目ない支援体制の確立」など、施策がしっかりと組み込まれていることが確認できる。このように、「子育て」や「学び」については、市民意識調査の結果から重要度と満足度のいずれも高いという数値が示されており、市民からの評価も一定得られていると感じる。また、子育てには、重要度が高く満足度が低い10番の「働く環境」分野もつながり、重要度と満足度がともに低い20番の「移住定住」も、子育てや学びに関連する。さらに、8番の商工業のK P Iに示されるが企業との協力・連携、その周知も大切になってくると感じた。
- 次に、施策展開の視点について、確かに今話題となっているというものではないが、SDGs、ウェルビーイング、ジェンダーギャップ、シェアリングエコノミーといった点について、市は積極的に取り組んでいると受け止めている。そこに大野らしさを取り入れながら、それぞれの団体が頭を悩ませ取り組まれているので、そのような取組が推進される後期基本計画となることを期待する。
- 委員 私も大野市の一番の問題は人口減少であり、人口減少を食い止めることが大きな課題と考える。こどもたちが大学進学などで市外に出ると、ほとんど戻ってこないのが大きな問題。こどもたちに働きかけても、就職先などの選択肢が少なく、戻ってこれない要因になっていると思う。やはりもう少し企業誘致など働く場の創出を進めていただきたい。交流人口の増加が図られているが、朝市に訪れる人は確かにいるものの、出店者が減っており、朝市と呼べる状況なのか疑問に思う。農産品の販売だけでなく、他の業種や品目も取り入れ、商工業の方々からもう少し力を貸していただけると良いのではないかと思う。また、「子育て」についてだが、最近、「明日の日本」という中で、ヤングケアラーの問題があると聞いた。大野市内に

どの程度こうした対象者がいるのかは分からないが、祖父母の介護を担ったり、弟や妹の勉強を見たり、食事の準備をしたりといった負担を背負っている子どもが全国的に問題視されている。市としても、そのような実態がどの程度存在するのか、把握を進めていただければと思う。

委員 大野市が現在、子育てや学び、健康面に非常に力を入れており、それに対して一定の成果を上げているという認識は持っている。しかしながら、全体として少子高齢化の進行もあり、大野市全体に非常に強く 閉塞感 が漂っているように感じる。未来に希望を持って、前に進んでいこうという感覚が、薄くなっている印象を受ける。

第五次総合計画だったと思うが、最初に若者の働く場の確保をはじめ経済面の施策が出ていたように記憶している。今の大野市の置かれている現状を踏まえると、中部縦貫自動車道の県内全線開通などがある中で、もう少し商工業、いわゆる経済の活性化について、未来への明るい見通しが持てるような計画、施策が盛り込まれると良いように思う。他の委員の方々もおっしゃっていたが、若者が就職できるような環境づくりをはじめ閉塞感を打破するような明るい未来への展望が、計画全体から見えてくると良い。どこの地域でも同様に、閉塞感からなかなか脱却できないという現状がある。そのような中で、大野の強みや良さをうまく取り込みながら、少しでも強い計画となることが望ましい。

会長

委員 私からは、計画冊子の構成に関して1点質問したい。12ページの「前期基本計画の評価」の部分である。これまでの幹事会や推進会議においても、前期基本計画の評価について議論があったと記憶している。現在、(作成中)となっているこの部分について、個人的な意見としては、冊子はある程度文字量やボリュームを抑え、見やすさを重視すべきと考えている。一方で、前期基本計画と後期基本計画で区分されることから、両者をリンクさせた構成も必要と考える。前期でこうだったことを、後期にどう生かしたかというつながりを示すことで、理解しやすくなる。その意味で、作成中の部分がどの程度のボリュームになるのか想定を教えてほしい。

さらに、他の委員から意見が出ていた「現状」と「課題」を分ける構成について、個人の意見を述べさせていただくと、現状と課題はまとめて記述した方がよいと考える。現状と課題は本来的に連動するものであり、現状を記述した流れで課題を整理し、次の施策へと自然に繋がっていく構成が理解しやすい。現状と課題を分けて記述すると、どの現状にどの課題が紐づくのかが不明瞭になり、読み手にとって分かりにくくなる恐れがある。見せ方としても、シンプルにまとめるという観点から、現状と課題をまとめて記述する形式が望ましいと考える。

会長 今のご意見は、先ほどの分けたほうが良いとする意見と対照的であり、どちらの形式にも一理あると感じた。どのような構成が市民にとって分かりやすく、納得感があるのか、事務局とともに改めて検討したい。

事務局 前期基本計画の評価について、現在2ページ程度のボリュームを考えてい

る。24 項目について表形式で簡潔に示すイメージである。なお、A、B、Cや点数付けなど評価の方法については、来週開催する推進会議で諮る予定。現状と課題の表記方法についても、今回のご意見も踏まえ考えたい。

委員 「みんなができること」の記載について、市民が自発的に参加できるような表現となっており、とても良いと思う。あまり費用のかからない、日常的に取り組めるところにも力を入れていくところが良いと思う。

委員 私からは、一市民の立場から申し上げたい。基本的にこの総合計画については、コンパクトで良いと考える。言葉というのは独り歩きしがちであり、メッセージとして伝えにくい側面を持つ。従って、説明が長ければ理解が深まるというものではなく、むしろキーワードを的確に伝える表現の方が有効であると考えます。

今回の総合計画は10年間の単位で策定されており、その中の後期5年間を見通すという位置づけである以上、前期を踏まえた上で、後期を総括的にカバーするものであるべきと考える。その意味では、表現にある程度の制約があるのは当然と受け止めている。抜本的な見直しは、次の総合計画において図られることが望ましい。

また、評価指標として示されている部分については、大野市としてのマクロの数字をしっかりと提示すべきと考える。財政見通しについては、理解されている市民も多くいると推察するが、生活指標としてどのような数値を挙げるかは重要である。数字は客観的であり、行政が取り組む姿勢を示す上でも明確な数字を置くことは不可欠と考える。時間の制約もあり、全体の構成についてはこの程度にとどめるが、内容の中で一点、取組として申し上げたい。

私は幹事会にも出席し、さまざまな意見交換を行ってきた。その中でどの取組も重要との認識を持っているが、課題は「誰が実行するのか」という点にある。たとえば観光業においては、観光ビューローがあり、一定の予算の中で方向付けを行い、全体をリードするような組織が存在する。しかし、商業や商工業の分野においては、現状の中で何が課題となっているかをしっかりと把握し、それを解決へ導けるような体制・組織が大野市に存在するのかという点に疑問がある。観光ビューローのように公益性を確保しながら、地域課題を解決に導く組織体が必要であるということである。特定のピンポイントな課題の解決には、個人情報取り扱いが不可避となる。個人情報を管理しつつ、全体で議論できる体制を整えるには、やはり組織やプラットフォームがなければ対応できない。具体的には、空き店舗、空き家や空き地の現状、これらがどのように推移し、課題がどう解決されているのかといったことが「見える化」されていない現状がある。こうした情報を組織的に管理・可視化し、課題を焦点化して取り組む仕組みを、総合計画の中に一部でも取り入れていただければ、非常にありがたい。

会長 さらに深掘りした方が良い施策など、追加の意見があればお願いしたい。

委員 前回の審議会の際に、消防団のあり方検討会を設置する話をさせていただ

いた。3月に第1回の委員会を開催し、改善や見直しに関するさまざまな意見が出された。第2回委員会は、8月8日に開催予定であり、今後何に取り組んでいくかを議論する。処遇改善や条例定数の見直しなど、約10項目の課題があるが、一気に全ては対応できないと考えており、2年間の計画で段階的に進めていく予定である。

消防団員の生活も変化が見られ、近年はサラリーマン化が進んでいる。令和6年には、団員の76.5%が被雇用者であったが、現在は77.8%にまで増加しており、日中に市内にいる消防団員が減少傾向にある。これにより、日中の消火活動に支障をきたす恐れがある状況となっている。こうした状況を踏まえ、定年を迎えながら在宅にいる機能別消防団員を増やす案が出ている。また、新入団員の加入促進策として、6月7日に開催された消防フェスティバルにおいて、女性消防団による防火の劇を披露した。さらに、女性団員が作成した「消防団員募集のチラシ」を来場者に配布し、加入を呼びかけた。従来、女性消防団が地域行事に参加する機会は年に1回程度であったが、今年の盆踊りは2日間の参加に増やし、消防団の活動を市民にアピールする機会を増やしていく。

消防団活動の障壁として「運転免許」の問題もある。消防自動車は3.5トン以上の車両が多く、準中型免許が必要である。しかし、若い世代の中にはこれを取得していない者も多く、市ではその取得のための補助制度を県と連携して検討している。また、ポンプ車の多くはマニュアル車であるため、オートマ限定免許の解除にかかる費用についても検討している。このような取組を通じて、少しでも消防団への加入者を増やしたいという思いで、努力を重ねている。

委員

将来に希望の持てる話題を紹介したい。昨日、「めいりん」において大野市青少年健全育成推進大会が開催された。そのプログラムの一環として、市内の学生によるパネルディスカッションが行われ、テーマは「夢、10年後の自分の夢について語る」内容であった。登壇したのは、各中学3年生男子生徒、各高校3年生の女子生徒ら4名であった。特に印象に残ったのは、中学校の男子生徒で、彼は将来、林業関係の職業に就きたいという志を持っており、大野市が県内で最も森林資源を有していることを踏まえ、その森林を保全しつつ、木材の利用価値を高めていきたいという強い想いを語っていた。また、ほかの生徒も大学卒業後には大野市へ戻って就職し、地域に貢献したいという考えを持っており、郷土愛に満ちた頼もしい発言が続いた。こうした発言を聞き、大野市の未来を真剣に考えている若者が確実に存在していることに深く感銘を受け、心から嬉しく感じた次第である。後期基本計画の策定にあたっては、このような若者の存在と、その想いをしっかりと踏まえた内容となることを期待する。

会長

今の話は、素案の中でやや欠けている要素を指摘するものと受け止める。総合計画・まちづくりにおいては、暮らしやすさ、安心・安全といったテーマをいかに充実させていくかが重要となる。一方で、先ほど発言があっ

たように、重点項目をある程度絞るという考え方も示され、その点は検討の余地がある。

まちづくり、地域づくりにおいては、まずは自助が求められる。その上で、最終的には地域経済の活性化こそが根幹と考える。24項目について総花的に施策が講じられることは重要であり異論はない。人口減少が進行する中で、経済の規模とキャパシティをいかに食い止め、逆に増やしていけるか、非常に難しい試みであるが、そのような基本計画であることを期待する。より経済性の追求をポイントにとりまとめられることを、私の意見として申し上げる。

(2) その他

事務局 本日、欠席された委員もおられるため、議事録をお送りする際に、欠席された委員からも意見をいただく。その際に、本日の会議中に言い切れなかった点や補足すべき意見等があれば、併せてお知らせいただきたい。

4 閉会

本日は、貴重なご意見を多数いただき、感謝申し上げます。皆様のご意見を拝聴しながら改めて考えるに、やはり人口減少が大野市にとって深刻な問題であると認識する。場合によっては、将来的に大野市が存続できなくなる可能性すら否定できず、緊迫感を持ってこの問題に臨まなければならないと感じている。

広い視点で多様な意見を取り込もうとすると、結果として論点が多岐にわたり、結局のところ分かりにくい、何をすべきかが分からなくなるというジレンマがある。一方、優先順位をつけることで漏れてしまうこともある。包括性と優先順位の矛盾を、どのように折り合いをつけるのかは、考えていかなければならないと感じた。

◆会議資料

大野市総合計画審議会委員名簿

資料1：第六次大野市総合計画後期基本計画の策定状況

資料2：第六次大野市総合計画後期基本計画等策定スケジュール

資料3：第六次大野市総合計画後期基本計画（素案）